



動物コースの「動物学実習」は8月30日から9月1日まで仙台市太白区秋保町の「木の家」周辺で行われ、3年次生15人が参加した。森林と名取川の水辺で昆虫を採集し、生理・生態学的特性の計測や分類を行った。悪天候のためフィールドワークには適さないあいにくの条件だが、今回の経験を生かして、観察記録すべきボイントをおさえて研究を進めたい」と話した。

動物コース

石巻川開きまつり 526人地域盛り上げる



力自慢が出場し初優勝=大縄引き



息を合わせて舟をこぐ学生=孫兵衛船競漕

講義する横江特任教授



担当する「保育・教職実践演習（幼・小）」「初等教育実習事前事後指導」では、主体制的、対話的

間の教員生活を経て、今年4月から石巻市や近隣の小学校での38年間の教員生活を経て、今年4月から石巻専大に。研究テーマは「学級経営を通じた学級文化の形成による望ましい人間関係づくり」で、多くの学生にこれまでの経験を伝えるとともに、教職を志す学生を取り入れながら必要

研究室探訪 -②- 教職を志す学生を育てる

横江信一 特任教授

人間学部
人間教育学科

で深い学びにつながる集団討議の手法を習得してほしいと考えている。児童の発言力を育てるために探究の対話(pedagogy for children、子どもの哲学)を活用することや、他者との折り合いの学習方法を解説する。

また、授業にはアクティブラーニングを取り入れ、心をほぐすアイスブレイクを活用するなど、学生に対する意欲を引き出す授業づくりを実験することによって、学生が教員となつきあいができる能力を身につけてほしい。

海と森で学外実習

理工学部生物科学科



調査のための海水を採取する学生たち

海洋生物学コースの「海洋生物学実習」は8月28日から30日まで牡鹿半島の石巻市狐崎浜で行われた。宿泊先である狐崎浜漁村センター周辺の海岸で、プランクトンの生物相や生物密度の昼夜比較調査を体験したほか、漁

理学部生物科学科の3年次生が野外にて生物採集や観察・観測に取り組む学外実習が、夏期休暇を利用して実施された。

海洋生物学コース

石巻専修大学

・[石巻専修大学]ホームページ

<https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/>

石巻専修大学
広報係
TEL 0986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
TEL 0225-22-7717(直)

本創立
年
430年
をた
年
え
立
迎



が分かった」。卒業研究はクラゲを取り上げる予定で「実習で経験した塩分や酸素濃度など環境因子の測り方を生かしたい」と話した。

多くの来場者を集めた「White Deer (Oshika)」を見学=8月30日

庄子ゼミと石巻高生芸術祭の魅力発信へ



高大連携プロジェクト 庄子ゼミと石巻高生芸術祭の魅力発信へ

新たな高大連携プロジェクト「リボーンアートプロジェクト」が始動

トプロジェクト」が始動した。経営学部の庄子貞岐ゼミ、宮城県石巻高校新聞部、一般社団法人Reborn-Art Festivalが連携。2019年に石巻

延べ26万人が訪れた。芸術祭。17年に初開催され、51日間で

庄子ゼミは「観光まちづくり」が研究テーマ。プロジェクト代表を務める石山龍汰さん(4年次)は「高校生の斬新なアイデアを取り入れながら必要

RAFは、石巻中心市街地と牡鹿半島を舞台にアート、音楽、食を楽しむ総合芸術祭。17年に初開催され、51日間で

RAFは、2018年に参加。8月8日にはゼミ生と高校生計17人が自分たちの視点でいきたい」と意気込む。イベントの魅力を探るべく、牡鹿半島でフィールドトリップを行った。

RAFの拠点施設・牡鹿ビレッジと桃浦ビレッジで施設や展示作品を見学し、郷土料理を食べるなどRAFを体感。安達

翔汰さん(4年次・宮城県東北高)は「現地を見学部・舛井道晴ゼミの千葉大輝さん(3年次・宮城県仙台育英高)、佐藤郁朗さん(3年次・山形県鶴岡中央高)のチームが開発したAR(拡張現実)技術を用いた子ども向け知育アプリ『ARB』が奨励賞を受賞した。『ARB』は、スマートフォン上に表示した床や壁にブロックを縦横無尽に重ねることができるもの」を考え、提案していきたい」と意気込む。

7月20日のキックオフミーティングのあと、メンバーは来年に向けたプランニングを実施した。

学生スマホアプリコンテスト 経営・舛井ゼミ 奨励賞



アプリの概要を発表する千葉さん

なものを考えて、提案していきたい」と意気込む。イベントの魅力を探るべく、牡鹿半島でフィールドトリップを行った。

RAFの拠点施設・牡鹿ビレッジと桃浦ビレッジで施設や展示作品を見学し、郷土料理を食べるなどRAFを体感。安達

翔汰さん(4年次・宮城県東北高)は「現地を見

て、インターネットだけでは分からぬ魅力に触れることができた」、木村春輝さん(2年次・宮城県松島高)は「市街地からの移動情報を充実させたい」と話した。

翔汰さん(4年次・宮城県東北高)は「現地を見た。宿泊先である狐崎浜漁村センター周辺の海岸で、プランクトンの生物相や生物密度の昼夜比較調査を体験したほか、漁

て、インターネットだけでは分からぬ魅力に触

れることができた」、木村春輝さん(2年次・宮城県松島高)は「市街地からの移動情報を充実させたい」と話した。